



# 瀬戸小だより

ふれ合う 認め合う 共に学ぶ 笑顔あふれる瀬戸ヶ谷小学校

mail:v3setoga@edu.city.vokohama.jp

学校だより 9月号  
令和3年9月30日  
横浜市立瀬戸ヶ谷小学校  
校長 松永 淳子  
TEL 713-8336 FAX 713-9749

瀬戸ヶ谷小学校

検索 

## 不易流行

校長 松永 淳子

校庭のマテバシイの木にどんぐりがたわわに実り、秋本番を迎えています。夏休み明けからの分散登校がやっと終わり、全校児童が一斉に登校できるようになります。昨年度の分散登校は年度の初め、今年度は夏休みを挟んでということになりました。時期の違いは子どもたちの心にも大きく影響し、今回はクラスの友だちとの再会を待ちわびている様子が昨年度以上に伝わってきました。約四か月間も同じ教室で学んだ友だちと長期休業明けに会えないことは、とても寂しいようです。学級で共に学んだ友だちはとても大きな存在になっています。

分散登校中の教室で大きな変化がありました。それは、どの学級の子どもたちも端末を使い学習をしているということです。これまでは、学校の授業というと「教科書、ノート、黒板」が欠かせないというイメージが私にはありましたが、みなさんいかがでしょうか。このコロナ禍をきっかけに教育環境が変わろうとしています。

1年生から6年生まで学年に合わせた形での学習のスタートとなりましたが、それぞれよく順応し、上手に操作をしています。この分散登校中で学級の人数が半減されていますので、各学級の担任も端末の操作の苦手な子どもたちの質問に十分に答えながら学習が進められ、子どもたちの習得も確実に進んでいます。今までは、黒板に書いていた学習問題は子どもたちの端末に映し出され、タブレットで確認するという場面も増えてきました。これは子どもたちにとっても負担が軽減され、学習課題にすぐ取り組めるというメリットがあります。映像も鮮明で、色鮮やかに映し出されるので、今まで黒板に書かれていたイメージと違うようにさえ感じてしまいます。直接端末に色を付け文字を書き込んだり、丸で囲んだりすることを容易に行うことができ、子どもたちの思考を助けることに繋がっています。また、高学年では、理科室で教職員が実験している様子を教室のテレビや端末に映し出し、その様子を見ながら学習を進めていました。理科室を使用して実験することが難しいこの時期、たいへん効果的な方法です。宿題をロイロノートで受け取ったり提出したりすることで、宿題についての意識も高まっているようです。これらは、学年や学級の様子をみながら、様々な形で行われていますので、瀬戸ヶ谷小学校の子どもたちが一様に同じではありませんが、端末を使いながら学習を進めることで、子どもたちの学びをサポートするための工夫は同じです。

夏休み後の朝会でGIGA開きを行いました。その時、端末を学習で使用するということについて担当の教員から話がありました。とても便利な学習道具であること、しかし使い方を間違えると「人」を傷つけることに繋がること、落としたり壊れるので大切に扱うことなどについて説明がありました。約束を守り、大切な学習道具として使用してってもらいたいと考えています。保護者の皆様もご理解ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

端末を使用することで子どもたちの好奇心が深まり、学習をサポートする大切な道具になったことは確かです。一方で、人と人が直接つながることも大切な教育環境だと考えています。会えない時間が友達の大切さを再認識させてくれました。学級のみなが一同に会し、仲間と会話を楽しみながら過ごせる時間がやっとなってきます。そんな学校生活が充実したものとなりますよう健康観察などこれまでと変わらぬご支援を頂けますようよろしくお願いいたします。